

# ひの未来対話ワークショップ 記録整理

## 「居場所と地域の未来」——トレンド分析ボード／未来マインドマップ 全記録

### 0. このレポートについて

本レポートは、日野町「未来対話ワークショップ」で作成された壁面模造紙の写真を文字化し、整理したものです。

#### 判読確度マーク(付録の逐語転記で使用)

| 記号 | 意味                |
|----|-------------------|
| ◎  | 全文を確信をもって判読       |
| ○  | ほぼ判読(1～2字が字形推定)   |
| △  | 半分程度のみ判読、文意は推定    |
| ×  | ほぼ判読不能(見えた断片のみ記載) |

#### 記録上の但し書き

- 推測による補完は行っていない。読めない箇所を「意味が通るように」補うと、実在の参加者の発言を歪めることになるため、判読できない文字・語は「[判読不能]」または「[ ]」(字形推定)のまま残した。
- 記号の凡例(参加者が付箋に付けた符号):
  - 丸数字 ①②③ … その付箋がどのトレンドについて書かれたかを示す(①居場所／②人口減少／③学び・教育)。付箋が貼られた欄のトレンドと一致することが多い。
  - 一部の付箋には丸数字のほかに丸囲みの符号が見られるが、写真からは丸数字(②③等)との判別が難しく、好悪の極性記号かどうかを確定できない。本レポートでは**確実に読める丸数字①②③のみ**を記載し、極性記号の注記は行わない。
  - 一部の付箋に所属・氏名の書き込みがあるが、個人が特定されうる署名は本レポートでは省略した。

### 1. ワークショップの枠組み

3枚の模造紙は、いずれも「居場所と地域の未来」を共通テーマとする、2つの思考ツールで構成されている。

トレンドボード(A面・B面の2グループ分) … 日野町の未来に関わる3つのトレンドを軸に、それぞれが「地域」と「団体・個人」の2つのレイヤーで何を引き起こすかを、付箋で洗い出したもの。

|               | トレンド①            | トレンド②        | トレンド③          |
|---------------|------------------|--------------|----------------|
| テーマ           | 居場所へのニーズの高まりと多様化 | 人口減少と様々なほころび | 学びと教育のあり方の問い直し |
| 地域に起こりうること    | (青付箋)            | (青付箋)        | (青付箋)          |
| 団体・個人に起こりうること | (ピンク付箋)          | (ピンク付箋)      | (ピンク付箋)        |

未来マインドマップ「居場所と地域の未来」 … 中央にテーマを置き、そこから連想を放射状に広げたもの。トレンド分析より発散的で、キーワード・アイデア・具体的な将来予測が混在する。

以下、第2章でトレンド別に論点を整理し(A面・B面の両グループを統合)、第3章でマインドマップを整理する。逐語の全記録は付録に収めた。

## 2.トレンド別 論点整理

本章は、確度 ◎○ を中心に、意味の明瞭な △ を補って整理したもの。判読不能(×)の付箋は除外している。付箋の逐語・確度・判読不能分を含む全記録は【付録 A】を参照。A 面・B 面の両グループで挙がった論点を統合し、重複は集約した。

### トレンド① 居場所へのニーズの高まりと多様化

#### ◆ 地域に起こりうること

##### 「居場所を増やすこと」自体への根本的な問い直し

- 居場所の乱立——いいのか、悪いのか。本来の根幹的な居場所である「家庭」が置き去りになっていないか(家庭力低下の助長では?)
- 居場所がどこにどれだけできようと、行けない人は行けない。「解決した」という思い込みを持たないように
- 居場所を作ることに注力して、かえって「居場所の必要のない社会」の設計がおろそかになる
- 小さな居場所から大きな居場所までを把握し、(ニーズの)漏れがないかを確認する必要が出てくる
- 人が集まらない「居場所」と名のつくところばかりが増える
- 「居場所」が増えると、かえって孤独を感じる人も増えるかもしれない

##### つながりが薄れるからこそ居場所が要る、という循環

- 人とのつながりが希薄化するからこそ、居場所がもっと求められる
- 相談できる場所がなくなる
- 子どもが人とのつながりを感じられる機会が減り、狭いコミュニティ内で生きることになる
- オフラインで人とつながる価値を知らないまま大人になる
- 色んな人とつながれるけれど、自分の住む地域へのつながりは薄くなる
- ニーズに合わせて自発的に居場所ができればよいが、そうでなければ既存施設(職員)の負担になる
- 担い手の減少による団体自体の疲弊・存続の危機

##### 多様化・外部化

- 家族のかたちが多様化し、別々に住むことが多くなり、よりどころとしての「隣近所・地域」という色が薄くなる
- 家族のあり方(そのもの)の理解／家族としての居場所はどこか
- 二拠点生活
- フリースクールやフリースペースが多様になり、増えていく
- 居心地の良さ・ニーズの高まり
- 外から移り住みたいと思っても、馴染めず、住み続けることが難しい
- 自発的にコミュニティ(居場所)がつくられる
- 空き家・空き教室の増加(A 面)／今あるコミュニティを再編する(A 面)
- 地域に人がいなくて孤立する(A 面)／みんな食堂のニーズが増えて、既存の体制では維持できなくなる(A 面)
- 支援者の高齢化・継承困難(A 面)／ニーズに対する担い手がなくなる(A 面)

#### ◆ 団体・個人に起こりうること

##### 居場所づくりの担い手として動く

- やりたいことでコミュニティができる
- 企業と店とつながり、体験・経験の機会づくり
- 親や支える人の居場所にもなる／地域の見守り
- 学校の中に居場所(A 面)／インクルーシブな居場所づくり(A 面)

- 空き教室を利用し、教室を地域へ開放する(A 面)
- ニーズを満たすため、居場所をコンセプト分けで作る(A 面)
- 地域おこし協力隊の導入をサポートする(A 面)
- 自分が「参加する側」にも「する側」にもなる(A 面)

## 外国につながる住民の居場所

- 外国にルーツをもつ子どもや親が、気軽に行ける居場所づくりが必要になってくる
- 外国につながる子どもたちの居場所を、どこが担当するのか。役割を分けられるか
- 日本語・外国語をお互いに学べる場づくりについて、誰かがしなければならなくなるのでは

## 懸念・ジレンマ

- もし居場所への比重が高まった時、反比例して家庭の力が下がれば、(自分の)仕事の負担は増すだろう
- 「不登校の子ども」だけではなく、地域の人や、学校に行っている子どもたちなど、多様な人の居場所にもなっていける可能性
- 子どもが多様化し、公教育だけでは補いきれない。フリースクール等のような多様な場の必要性が高まる
- 特定の思想を持った団体による勧誘活動がはびこる(懸念)
- 町内・居場所の情報共有が難しくなる
- 居場所がいくつかあって、そこでつながる人たちも増え、相互理解や受け入れが日常化する(A 面)
- 二極化——居場所づくりが進み、いろいろな場に参加できる人と、身近な一人の場で安心している人(孤立)に分かれる(A 面)

## トレンド② 人口減少と様々なほころび

### ◆ 地域に起こりうること

#### 自治・地縁の仕組みが機能不全へ

- 地域(字)単位での集まりができなくなる → 地縁団体の力がなくなってくる
- 自治会等の役が同じ人にあたる／地域の役は同じ人ばかりが務める
- ルールがあいまいになる(同じ人でずっと回している)。きちんと引き継がれない
- 消防団・民生委員など、役割を果たせなくなる区が出てくる。役割がイヤで区を出ていく人もいる(A 面)
- 自治会が機能しなくなる(A 面)／小学校の統廃合(A 面)／町内教職員の減少(A 面)
- 字や区での様々な事ができなくなっていく(A 面)

#### 財政・インフラのほころび

- 企業誘致による税収入の増 ⇔ 人口減少による税収入の減少[同一付箋で対比。原文の表記は「誘地」]
- インフラが悪化する(A 面)／食品や住居の取得にかかる費用が増す

#### つながり・見守りの喪失

- 地域の人の顔を知る機会が減り、見守り・支えあいが難しくなる
- 人口流出が止められない。社会構造・地域格差を感じる
- 人口減少により、人とのつながりがもたにくくなる(自分から動き出す必要性)(A 面)
- 個人が主張しやすくなる(同調圧力の低下)(A 面)／地域ぐるみの子育て(過去)から家族単位で完結(今)していきがち(A 面)
- 「お金がない」から(活動を)締める手が増える
- 点在している集落がなくなり、町の中心に集まるようになる
- 集落の消滅危機

#### 空き家・土地・環境・災害

- 空き家の激増／移住者を増やし空き家を活用する

- 土地の乱開発／住環境の悪化
- 災害(水害)の激甚化／災害時、誰が何をできるかわからず避難所運営が難しくなる
- 田舎の環境が荒れる(A 面)

### 外国人住民の増加と摩擦

- 人口減少に歯止めをかけるのが外国人頼りになり、地域の担い手として生活してもらう心構えが要る
- 外国人だけのコミュニティができてしまい、地域の中で分断が起きる

### 文化・生業の縮小

- 祭りなどの行事がすたれる／文化が失われる(A 面)
- 祭りや竹細工などの担い手が少なくなり、伝統文化・行事が次世代に継承されなくなる(A 面)
- 後継ぎ・商売を継ぐ人がなく、外に出てしまう
- 習い事の場合が減少する／孤独死が増えていく
- 介護の担い手不足により、十分な介護を受けられなくなる。家で暮らせない(A 面)
- 単身世帯が高齢化していくことで、安心して暮らせない世帯が増える(A 面)

## ◆ 団体・個人に起こりうること

### 担い手不足の実感

- ヤングケアラー、働き方
- 農業人口の更なる減少
- 人手不足で[事業／施設]の運営ができなくなっている(A 面・複数)
- 20 年後には集落の世帯数が減り、あと 5 軒しかない(A 面)
- 観光協会は地域からの依頼を受けて参加者募集を作っている。今後こうした取組がもっと増えていく(A 面)
- 企業(中小)の働き手不足／自動化への移行
- 私で 5 役(一人が何役も担う)(A 面)／町内行事の負担がふえる(A 面)
- 地域と家と後継者がいない。私の代で終わってしまう(A 面)
- 教員や支援員のなり手不足(A 面)

### 暮らし・意識の変化

- 幸福度に注目が集まる
- 地域を「オモシロイ」と思えなくなる
- 気が付けば今日、AI としか話していなかった。人との関わりの大切さに気付く(A 面)
- とにかく、さみしい(A 面)／地域での交流機会が減少(A 面)／個で発信(A 面)
- 子どもを育てる余裕がなくなり、少子化がより悪化する(A 面)

### 前向きな動き

- 夜の居場所の充実を行う／多世代での居場所の共有・共同利用
- 助け合いシステムの構築に、より力を入れていく
- 多文化共生の視点をもった人をつくる(A 面)／拠点外での学び(A 面)
- 楽しいことだけ残す(A 面)
- 私が住んでいる地域は祭に参加する義務のないエリアだが、既に参加している人もいる。同じようにやってみればいい(A 面)

## トレンド③ 学びと教育のあり方の問い直し

### ◆ 地域に起こりうること

#### 学びの多様化と迷走

- 1+1 が 2 ではなく、答えがいくつもある。選択を広げる教育
- 教育も多様化するが、少数派の意見はどれ程うけとめられるか
- みんなが自分のやりたいことができている
- 多様化と学びの方向の迷走(A 面)／教育の定義がひろがる(A 面)
- 様々な教育の場・経験の場が増える／地域より塾になる(B 面)
- 多様な生活形態の需要増(A 面)

### 学校・地域・家庭の境界の変化

- 家庭と地域の枠組みがひろく、あいまいになる(A 面)
- 地域の大人と子どものつながりが少なくなる。家族単位・個人がより大きい(A 面)
- 地域とこどもの生活の乖離(A 面)／近くに学ぶ場がなくなる(A 面)
- 地域のことを語れる人がいなくなる(A 面)／教育施設の統廃合(A 面)
- 民間教育の場になる(A 面)／子どものつどえる場所を沢山つくる(A 面)

### 技術・AI の影響

- AI 先生の授業
- AI 活用が良い方向に。地域で活用する(A 面)

### 格差・機会の懸念

- やる気の少ない子どもたちが、情報の少ない中で体験不足のまま居続ける
- 交通手段の不足から出かけず、チャレンジしない。機会の損失で、あきらめることを選ぶ子・人が増える
- 引きこもり、人と話すことがなくなり、痛みのわからない子が増える
- 生きる力の弱い子どもが多くなる(A 面)
- フリースクール／学校のどちらにも行かない・行けない子どもの増加(A 面)
- 学校でできることが限られ、子どもたちの経験に差が出てくる(A 面)
- 教育の価値が、誤った情報や教員個人の差で下がる可能性がある(すでに…)。「学校の付加価値とは何か？」(A 面・コミサポ)
- 経験の差——自分で考える経験をする場が失われ、公民館に求められることが増える一方、スタッフのなり手はいない(A 面)
- 学校教育の多様化への限界。先生不足・キャパオーバー(A 面)
- 校内別室・支援センターなど、多様な学びの場へのニーズの増加(A 面)
- 親(保護者)の価値観のもとだけで子どもが育つ環境が起こりうる(A 面)
- 情報や知識ばかりで、現実には(対応)しきれないことが起こりうる(A 面)

### 担い手・教育現場

- 先生が大変になる／塾需要が減
- 学校任せが加速する(他責な子育て)
- 教育のやり方(そのものが問われる)
- コミュニティスクールの取り組みが進む(A 面)
- 技や経験のある人材がいなくなる(A 面)／既存の教育関係者からの反発(A 面)
- 子どもの意欲にマッチした教え方ができると良い(A 面)
- 地域行事や部活動で、教える人が少なくなり、ノウハウの継承がなくなる(A 面)

### ◆ 団体・個人に起こりうること

#### 教育観の転換

- 好きを育み、得意を伸ばす教育への転換
- 教え方や方法を変える
- 学歴社会——いい大学を出ても社会で対応できなくなり、自殺したり、やめたり。心のケアが要る



- 決断力の育成(A 面)
- 生きる力を育てる → 個別化の強化 → 孤独の助長(というジレンマ)(A 面)

#### つなぎ役・コーディネートの必要

- 個のニーズへの対応力(コーディネーター)(A 面)
- 地域人材の学校教育への参画(A 面)
- 学校と地域が連携をとって、今より子どもの[教育]になっている(A 面)
- 親世代の学習アップデート(A 面)／子どもと一緒に、親が地域に入る(A 面)
- (特に子どもから)周りの人から学ぶ機会がなくなる(A 面)

#### PTA・保護者の関わり方

- PTA 解散／「やりたい」を応援する PTA になる
- 子どもの居場所の人数が少なく、迎えに行くことになる。時間の制限
- 自分の孫も、今、学校に行っていない。これからも教育機関とどうつながるか？
- 情報源の選択

#### 体験・多様性のコスト

- 体験のコンテンツ化による弊害(格差／商業化)(A 面)
- 体験・興味不足を(どう見るか)、参加しない家庭にどうアクションするか悩む(A 面)
- 多様な対応を求められることが増えるが、それに対応する十分な資源の不足(A 面)
- 民間や公共の多様な学びの場と、学校との連携の重要性 UP(A 面)
- 機械や AI に頼りすぎず、上手く活用しつつ「ベストミックス」を考える(A 面)
- 体験活動の重要性や価値の再認識、提供する側の人材育成が必要(A 面)
- 学びにやがてついていけない・不登校の子が、学び直せる環境が必要となってくる(A 面)
- 農業塾の開催／準備(B 面)

### 3. 未来マインドマップ「居場所と地域の未来」

中央に「居場所と地域の未来」を据え、放射状に広げられたキーワード・アイデア群。トレンド分析より自由な発想で、具体的なアイデア／将来予測／懸念が混在する。テーマごとに整理する(逐語・確度は【付録 B】)。

#### ◆ 居場所の具体的アイデア

- **tenbanka** を軸にした構想。「ミニ道の駅」「ミニ公民館」「ミニ社協」をそれぞれ tenbanka として展開
- 高齢者の居場所／大人の居場所／若者の居場所(「ミニプロ」)／子どもの居場所——世代別の居場所
- 子ども食堂の増設
- 食べる・遊ぶ・学ぶ(居場所の機能)
- インクルーシブ(な居場所)
- 公民館のコミュニティセンター化
- キッチンカー(パレード／子ども食堂カー)

#### ◆ 地域・つながりのキーワード

- 企業と店を知る／仕事ってなんだ？を知る(企業・仕事とのつながり)
- 経験・体験を知る・広げる
- 関係人口を広げる
- 民俗行事、維持の外部化
- 人と人とのつながり、広く深く
- 個人主義・権利主張 → コミュニティ衰退(懸念)

- 「こうでなければならなかった」ことが、そうでもなく多様化している
- コンヴィヴィアリティ(自立共生)な社会
- 地域の力が必要

### ◆ 人口・世帯・多様化

- 人口の減少／人口減少しているが、夏は人口増
- 高齢者・単身者の増加、移動手段の課題
- 共働き世帯の増加／単身世帯の増加
- 不在村地主の増加(ストック型 → 〔循環／補填〕型へ)
- ジェンダーの多様化／ライフスタイルの多様化／働き方の多様化／食の多様化・加速／学びの多様化／言語の多様化
- 外国人・障がい者・単身世帯など、多様な人どうしの共生
- 外国人住民の増加(生活者・住民として)
- 日本人の生活の相談事に、外国人住民も同じように関わる
- 米や茶など、日野の農作物の違い(＝地域の宝)

### ◆ 学び・教育の再編

- 公教育の再編
- 「あたりまえって何？ 今の学校教育、みんなと同じでいいのか？」＝個性
- 教育格差 → 体験格差 → スキル格差
- AI 時代になって、教育に求められることも「知識」の習得ではなくなる
- 少子化や社会の変化を背景に、大学入試が変わる(総合型選抜が増える)
- 2027 年に新しい学習指導要領が出る。well-being[の主体的な学び]が注目されるように
- 子どもの数は減るが「不登校」の数は右上がり
- 家庭教育・社会教育(力)の低下(地域)／社会教育が重要になってくる
- 子ども(大人)の体験不足
- 教育場・体験活動のカリキュラム再編

### ◆ 具体的な予定・将来予測(日野町固有)

- 令和 11 年 4 月、大型のこども園が開園
- 令和 10 年で閉園する幼稚園／幼保の園舎をどうするか

### ◆ 技術・防災・その他

- AI のとりこぼしで消えるもの／上の世代が持っている手仕事の技術の消失
- AI(チャット GPT 等)の急速な普及／AI との向き合い方
- 防災意識／かつてないほど警戒される、災害の予測
- 関心が薄くなる／個性 ⇄ 受容
- 介護・看護／理学・作業療法士の担い手不足
- 農業の担い手不足／太陽光発電の増加
- 住宅地に近づく獣(鳥獣被害)の増加／空き家の増加
- 若者が外に出ることがスタンダードになる
- 知識だけではなく、「誰と誰が一緒か」が大事
- 体験・経験の場の消失／社会教育の場の減少・消失
- 家庭教育の時間の消失／ライフスタイルの変化

## 4. 横断考察 ―― 3 枚の板から浮かぶ論点

3 枚の板を通読すると、テーマの区分(居場所／人口減少／教育)を越えて、いくつかの論点が繰り返し現れる。以下は記録者による整理であり、参加者の発言そのものではない。

### (1) 「担い手」がすべてのトレンドの底流にある。

居場所の運営者、自治会・消防団・民生委員、教員、農業・商業の後継者、保育サポーター、部活動を支える人材――あらゆる領域で「担い手の減少・不在」が挙がっている。「私で 5 役」「役が同じ人にあたる」「20 年後には集落の世帯があと 5 軒」という記述は、一人・一集落に負担が集中する現状を端的に示す。人口減少は、この担い手問題を通じて居場所にも教育にも波及している。

### (2) 「量」より「質・必然性」への転換、そして「居場所」への根本的な問い直し。

接写で新たに読めた付箋群は、この論点をより鮮明にした。「居場所の乱立――いいのか悪いのか」「居場所を作ることに注力して、居場所の必要のない社会の設計がおろそかになる」「人が集まらない“居場所”ばかりが増える」「“居場所”が増えると、かえって孤独を感じる人も増える」――居場所づくりを進める当事者自身が、“つくること”を自己目的化する危うさを問うている。教育側の「学校の付加価値とは何か」と同じ構造である。

### (3) 「家庭」と「居場所」の緊張関係。

「本来の根幹的な居場所である家庭が置き去りになっていないか」「居場所への比重が高まると、反比例して家庭の力が下がり、自分の仕事の負担が増す」といった付箋は、地域の居場所づくりが家庭の機能とトレードオフになりうるという、踏み込んだ問題提起である。

### (4) 多様化は歓迎と不安が同居している。

外国につながる住民、フリースクール、二拠点生活、ジェンダー、働き方――「多様化」は頻出するが、同時に「外国人だけのコミュニティで分断が起きる」「学びの方向の迷走」「少数派の意見はどれ程うけとめられるか」「二極化(参加できる人と孤立する人)」といった、多様化がもたらす摩擦・分断への懸念が対になって現れる。

### (5) AI が両義的に語られている。

「AI 先生の授業」「AI 活用が良い方向に」「機械や AI とのベストミックス」という期待と、「AI としか話していない」「AI のとりこぼし」「上の世代の技術の消失」という喪失感が併存する。技術そのものより、技術がもたらす人と人との関わりの変化に関心が向いている。

### (6) 日野町固有の具体的な転換点が近い。

令和 10 年の幼稚園閉園・令和 11 年の大型こども園開園、2027 年の新学習指導要領――向こう数年に制度的な節目が控えており、「空いた園舎をどうするか」という具体的な問いが、居場所論と直結している。空き家・空き教室の活用は、複数の板で居場所づくりの現実的な受け皿として挙がっている。



## 5. 未来マインドマップ 逐語全記録

### 居場所と地域の未来

- △ [判読不能 3 字] 企業と店を知る
- ○ 仕事ってなあに？を知る
- ○ 経験／体験／知る／広げる(4 語が階段状)
- ○ 子ども食堂 増設！
- ◎ ミニ道の駅／tenbanka
- ◎ ミニ公民館／tenbanka
- ◎ ミニ社協／tenbanka
- ◎ 食べる／遊ぶ／学ぶ
- ○ インクルーシブ
- ◎ 民俗行事、維持の外部化
- ◎ 関係人口を広げる
- ◎ 高齢者の居場所
- ◎ 大人の居場所
- ◎ 若者の居場所(「ミニプロ」)
- ◎ 子どもの居場所
- ◎ tenbanka
- ○ 人と人とのつながり、広く深く
- ○ 個人主義／権利主張 → コミュニティ衰退
- ○ 分ける文化へ
- ○ こうでなければならなかったことが、そうでもなく多様化している
- ○ コンヴィヴィアリティな社会
- ◎ 個性 ⇄ 受容
- ◎ 関心が薄くなる
- ◎ 防災意識
- ○ かつてないほど警戒される。災害の予測
- ○ 不在村地主の増加([○囲み]ストック型 → [○囲み][循環／補填?]型へ)
- ◎ 公民館のコミセン化
- △ キッチンカー(パレード／[子ども食堂]カー)
- ○ 農業の担い手不足
- ○ 太陽光発電の増加[小字の書き込みあり・判読困難]
- △ 介護・看護／理学・作業療法士の人材不足
- ○ 空き家の増加
- ○ 移動に困る人が増える
- △ 車社会の中で、高齢者の免許返納に対[応]…普及[?]
- ○ 高齢者・障がい者、移動タイヘン(大変)
- ◎ AI のとりこぼしで消えるもの
- ○ 上の世代が持っている手仕事の技術の消失
- △ AI チャット GPT[2 行目以降判読困難]
- △ AI による[判読不能]／乗り越える[壁?]
- △ オンライン[化?]／つながり[方?]
- ◎ 公教育の再編
- ◎ あたりまえって何？ 今の学校教育、みんなと同じでいいの？／個性

- ◎ 教育格差 → 体験格差 → スキル格差
- ◎ AI 時代になって、教育に求められることも「知識」の習得ではなくなる
- ○ 少子化や社会の変化を背景に、大学入試が変わる(総合型選抜が増加)
- △ 2027 年に、新しい学習指導要領が出る。well-being〔 〕が注目される…?
- ◎ 子どもの数は減るが「不登校」の数は右上がり
- ○ 家庭教育／社会教育(力)の低下(地域)
- ○ 子どもの(大切な)体験〔値?〕
- ◎ 社会教育が重要になってくる
- ◎ 令和 11 年 4 月、大型のこども園が開園
- ◎ 令和 10 年で閉園する幼保、園舎をどうする?
- ◎ ジェンダーの多様化
- ◎ ライフスタイルの多様化
- ◎ 働き方の多様化
- ◎ 食の多様化・加速
- ◎ 学びの多様化
- ◎ 言語の多様化
- △ 子ども〔囲碁?〕で多様化
- ◎ 外国人、障がい者、単身世帯など、多様な人どうしの共生
- △ 外国人住民の増加(〔○囲み②〕生活者・住民として)
- △ 日本人の生活の相談事に、外国人住民も同じように〔関わる〕
- ○ 米や茶など、日野の農作物の〔違い〕という宝(抹茶)
- ◎ 共働き世帯増加
- ◎ 単身世帯の増加
- ○ 家庭教育の時間の消失
- ○ 人口減少しているが、夏の人口増
- ◎ 地域の力が必要
- ○ 知識だけではなく、誰と誰が一緒かが大事
- ◎ 社会教育の場、減少・消失
- ◎ 体験・経験の場の消失
- ◎ 若者が外に出ることがスタンダードになる
- ○ 住宅地に近づく獣の増加
- △ 感情〔 〕アプリ〔判読困難〕
- △ トロの〔判読不能〕

## 6.トレンドボード 逐語全記録

### A-1.トレンド分析ボード B 面(付箋が密な板)

#### トレンド① 居場所へのニーズの高まりと多様化

##### 地域に起こりうること(青)

- ◎ ① 居場所の乱立〔欄外メモ「家庭力低下の助長に?」〕——いいのか? 悪いのか? 本来の根幹的居場所である家庭が置きざりに??
- ◎ ① 居場所がどこにどれだけできようと、行けない人は行けない。「解決した」という思い込みを持たないように
- ◎ ① 居場所を作ることに注力して、居場所の必要のない社会設計がおろそかに
- ◎ ① 子どもが人とのつながりを感じられる機会が減り、狭いコミュニティ内で生きる事になる

- ○ ① 外から移り住みたいと思っても、馴染めず、住み続ける事がむずかしい
- ◎ ① 小さな居場所から大きな居場所までを把握し、漏れがないかを確認する必要がでてくる
- ○ ① 居場所の不足による(流出)人口の減少
- ○ ① 疎縁化の進行
- △ ① 居場所[過多]により帰属力の低下するのでは？
- △ [教室?]の担い手としての居場所を作る
- ◎ ① 人とのつながりが希薄化するからこそ、“居場所”がもっと求められる
- ○ ① 相談出来る場所がなくなる
- ◎ 簡単に居場所をつくれるようになる
- ◎ ① “居場所”が増えると、孤独を感じる人も増えるかも
- ◎ ① 家族のあり方理解
- ○ 家族としての居場所はどこ？
- ○ オフラインで人とつながる価値を知らないまま大人になる
- ◎ ①② 担い手の減少による団体自体の疲弊・存続の危機
- ◎ ① ニーズにあわせて、自発的に居場所ができればよいが、そうでなければ既存施設(職員)の負担になる
- ◎ ① 人が集まらない“居場所”と名のつくところが増える
- ○ ① 自発的にコミュニティ(居場所)がつくられる
- ◎ ② 災害時、だれが何をできるのかわからず、避難所運営が難しくなる
- ○ ① 福祉的視点の居場所にリソースをつかい、クリエイティブな居場所がつかれない
- △ ① 地域の役[割]なくなり ↓ しがらみ
- ○ ① 色んな人とつながれるけど、自分の住む地域へのつながりがうすくなる
- ○ ② 地域イベントの活力が落ちていく
- △ ① 家族のかたちが多様化し、別々に住むことが多くなり、よりどころが隣近所・地域という色がより薄くなる
- ◎ ① 二拠点生活
- ◎ ① 居心地の良さ／ニーズの高まり
- ◎ フリースクールやフリースペースが多様になり増えていく
- ◎ ② 移住者を増やす／空き家の活用
- △ ② 個々の魅力に気づける社会

## 団体・個人に起こりうること(ピンク)

- ○ ① もし居場所への比重が高まった時、反比例して家庭力が下がれば(私の)仕事の負担は増すだろうな～
- ◎ ① “不登校のこども”だけではなく、地域の人や学校に行っている子どもたちなど、多様な人の居場所にもなっていける可能性
- ◎ ① 特定の思想を持った団体による勧誘活動がはびこる
- ○ ① 子どもが多様化し公教育だけではおぎないきれず!! フリースクール等のような多様な場の必要性が高まる
- ◎ ① 外国にルーツをもつ子どもや親が、気軽に行ける居場所づくりが必要になってくる
- ○ ① 外国に[つながる]子どもたちの居場所を、どこが担当するのか？ 役割り分けられる？
- ○ ① 日本語・外国語お互いに学べる場づくりについて、だれかがしなければならなくなるのでは？
- △ ① 塾[も]居場所として[判読不能]
- ○ 自分はショートステイをさせてもらっているが、どのように関われるか？ 自分としてどれ程、つながりを持っていく事ができるか？
- ○ ① 町内・居場所の情報共有が難しくなる
- ◎ ① 地域の見守り
- ○ ① 企業と店とつながり、体験・経験の機会づくり

- ◎ ① やりたいことでコミュニティができる
- ◎ ① 親や支える人の居場所にもなる
- ○ ① サロン、人が集まる機会の減少 → 対策を担う
- ○ 運営・参画者を育成するための機会・学びを提供する必要がある
- △ 費用の〔増〕／行政／人員の不足

## トレンド② 人口減少と様々なほころび

### 地域に起こりうること(青)

- ◎ ② 人口減少に備えているが、人口増加への取組をしている。いざ増にかたむいたら対応できるのか？(閉園 など…)
- ○ ② ルールのあいまい(同じ人でずっとまわしてる)。きちんと引き継がれない
- ◎ ② 人口流出が止められない。社会構造、地域格差を感じる
- ◎ ② 学校の統廃合。小規模校がなくなっていく？
- ◎ ② 地域(字)単位での集まりができなくなる ↓ 地縁団体の力がなくなってくる
- ◎ ② 地域の人を顔を知る機会が減り、見守り支えあいが難しくなる
- ◎ ② 住環境の悪化 / ② 災害(水害)の激甚化 / ② 土地の乱開発
- ◎ ② 空き家の激増
- ◎ ② 外国人だけのコミュニティができてしまい、地域の中で分断がおきる
- ○ ② 人口減少に歯止めをかけるのが外国人頼りになり、地域の担い手として生活してもらう心がまえが要る
- ◎ ② 孤独死が増えていく
- ◎ ② 集落の消滅〔取消線〕危機
- ◎ ② 自治会等の役が同じ人にあたる / ② 地域の役は同じ人ばかりが務める
- ◎ 核家族はますます進むが、その先に色々と困難も出てくる
- ○ 点在している集落がなくなり、町の中心に集まるようになる
- ○ ② 後継ぎ、商売を継ぐ事なくなり外に出てしまう
- ○ ② 食品か住居の取得にかかる費用が増す
- ○ ② 「お金がない」から締める手が増える
- ◎ 各自治会の集会所の維持運営
- △ ② 〔継子?〕の減少が発生する事で〔判読不能〕衰退が進む
- ○ ② 習い事の場合が減少する → 〔判読不能〕
- △ ② 結婚にあこがれ／住宅ローン・車ローン／〔判読不能〕
- ○ 人のとりあい

### 団体・個人に起こりうること(ピンク)

- ◎ ヤングケアラー／働き方
- ◎ 夜の居場所の充実を行う
- ◎ 多世代での居場所の共有・共同利用
- ◎ ② 幸福度に注目があつまる
- ◎ 学歴社会——いい大学でても社会で対応できなくなり、自殺したり、やめたり、心のケア
- ◎ ② 助け合いシステムの構築に、より力を入れていく
- ◎ ② 企業(中小)の働き手不足になる／自動化への移行
- ○ ② 日野町での〔農家?〕経営を断念してしまう
- △ 〔?〕農業塾の開催／準備
- △ 〔ヒトビト?〕の見守り
- △ 費用の〔増〕／行政／人員の不足

## トレンド③ 学びと教育のあり方の問い直し

### 地域に起こりうること(青)

- ◎ ③ 1+1 が 2 ではなく、答えがいくつもある。選択を広げる教育
- ◎ 教育も多様化するが、少数派の意見はどれ程うけとめられるか
- ◎ ③ みんなが自分のやりたいことができている
- ◎ ③ AI 先生の授業
- ◎ ③ 学校任せが加速する(他責な子育て)
- ◎ ③ 先生が大変になる
- ◎ ③ 様々な教育の場・経験の場が増える
- ○ やる気の少ない子どもたちが、情報の少ない中で体験不足で居続けている
- ◎ ③ 引きこもり、人と話すことがなくなり、痛みのわからない子が増える
- ◎ ・交通手段の不足から出ない、チャレンジしない。機会の損失で、あきらめることを選ぶ子・人が増える
- ◎ ③ 教育のやり方
- ○ ③ 塾需要が減
- ○ ② 空き家が増え、又、いろんなことの担い手が減る
- △ ③ [地域/地球?]とより密になる

### 団体・個人に起こりうること(ピンク)

- ◎ ③ PTA 解散
- ◎ ③ 好きを育み、得意を伸ばす教育への転換
- ◎ ③ "やりたい"を応援する PTA になる
- ◎ ③ 情報源の選択
- ◎ ③ 教え方や方法を変える
- ◎ ③ 子どもの居場所の人数が少なく、ひろいに行くことになる。時間の制限
- ◎ 自分の孫も、今学校に行っていない。これからも教育機関とどうつながるか？
- ◎ ③ より多くの"大人"が必要になる
- △ [旅?]と学びの目線

## A-2.トレンド分析ボード A 面(トレンド①欄が少なめな板)

### トレンド① 居場所へのニーズの高まりと多様化

#### 地域に起こりうること(青)

- ◎ ① 空き教室の増加
- ◎ ②① 選択肢の増加と(迷い)
- ◎ 今あるコミュニティを再編する
- ◎ 今まで来た居場所に集まらない
- ◎ ②① 地域に人がいなくて孤立する
- ◎ ① ニーズに対する担い手がなくなる
- ◎ ① 支援者の高齢化、継承困難
- ◎ ① みんな食堂のニーズが増えて、既存の体制では維持できなくなる

#### 団体・個人に起こりうること(ピンク)

- ◎ ◎① インクルーシブな居場所づくり
- ◎ ① 学校の中に居場所
- ◎ ① 空き教室・利用、教室の地域への開放
- ◎ ① 情報が入ってこない
- ◎ ① 居場所まで行けない



- ◎ 自分が参加する側にも、する側にもなる？
- ○ ニーズを満たす為、居場所をコンセプト分けで作る
- ○ ② 二極化——居場所づくりが進み、いろいろな場に参加できる人と、自分の身近な(一人の)場で安心している人(孤立)
- ◎ 地域おこし協力隊の導入をサポートする
- △ ① 居場所がいくつかあって、そこでつながる人たちも増え、相互理解や受け入れることも日常化する
- △ もし(?)状態が維持出来にくい[判読不能]になる

## トレンド② 人口減少と様々なほころび

### 地域に起こりうること(青)

- ◎ ② 人とのつながりを求めても、人がいない
- ◎ ② 小学校の統廃合
- ◎ ② 町内教職員の減少
- ○ ② 字や区での様々な事ができなくなっていく
- ◎ ② 企業誘致による税収入の増[原文表記「誘地」]
- ◎ ② 人口減少による税収入の減少／町
- ○ 人口減少により、人とのつながりがもちにくくなる(自分から動き出す必要性)
- ◎ まつりなどの行事がすたれる
- ◎ 文化が失われる
- ○ ②上 消防団、民生委員など役割をはたせなくなる区がでてくる。役割がイヤで区を出ていく人もいる
- ○ それぞれの役割の大切さがわかる／それぞれの形になる
- ◎ ② インフラが悪化する
- ○ ② 介護の担い手不足により、十分な介護を受けられなくなる。家で暮らせない
- △ ② 単身世帯が高齢化していくことで、[安心?]して暮らせない世帯が増える
- ○ ② 田舎の環境が荒れる
- ○ ①② 自治会が機能しなくなる
- ◎ ② 個人が主張しやすくなる(同調圧の低下)
- ◎ 地域ぐるみの子育て(過去) ↓ 家族単位で完結していきがち(今)
- △ ②上 [祭?]や竹[細工?]の担い手が少なくなり、伝統文化・行事が次世代に継承されなくなる
- ○ ③② 伝統・地域の文化が減少する[...]消える
- △ [判読不能 2 字]の存続が出来るのか

### 団体・個人に起こりうること(ピンク)

- ◎ ② とにかくさみしい
- ◎ ② 地域での交流機会が減少
- ◎ ③ 拠点外での学び
- ◎ ② 町内行事の負担がふえる
- ◎ ② 個で発信
- ◎ ② 農業人口の更なる減少
- ◎ 楽しいことだけ残す
- ◎ ② 気が付けば、今日、AI としか話してなかった。人との関わりの大切さに気付く
- ◎ ② 教員や支援員のなり手不足
- ○ ② 20 年後には集落(西明寺)の世帯数が減り、あと 5 軒しかいない
- ○ ② 多文化共生の視点をもった人をつくる
- ○ ② 私で 5[役]
- △ ② 人手不足で[判読不能]が聞けなくなる
- ○ ② 人手不足でひのたに園の運営ができなくなっている

- △ ② [国?], 地域と家と後継者がいない。私の代でおわっちゃう
- △ ② 子どもを育てる[余裕?]がなくなり、少子化がより悪化する
- △ ② 何を[?],と言われるかも
- △ ② 観光協会は地域からの依頼を受けて参加者募集を作っている。今後、こういった取組が増えていく
- △ ② 私が住んでいる地域は祭に参加する義務のないエリアだが、既に参加している人もいる。同じようにやってみればいい
- ◎ ③ 個のニーズへの対応力(コーディネーター)
- ◎ ③ 地域人材の学校教育への参画
- ◎ ③ 生きる力を育てる ↓ 個別化の強化 ↓ 孤独の助長
- △ ③ 学校と地域が連携をとって今より子どもの[教育]になっている

### トレンド③ 学びと教育のあり方の問い直し

#### 地域に起こりうること(青)

- ◎ ③ 多様な生活形態の需要増
- ◎ ③ 不登校の増加
- ◎ ③ 学校でできることが限られ、子どもたちの経験に差がでてくる
- ◎ ③ 教育施設の統廃合
- ◎ ③ フリースクール、学校どちらにも行かない・行けない子供の増加
- ◎ ③ 生きる力の弱い子ども多くなる
- ◎ ③ 教育の価値が誤った情報や教員の個人の差で下がる可能性がある(すでに…)。学校の付加価値は何か？[コミサポ]
- ◎ ③ 経験の差、自分で考える経験をする場が失われ、公民館に求められることが増える一方、スタッフのなり手はいない
- ◎ ③ 学校教育の多様化への限界。先生不足、キャパオーバー
- ◎ ③ 家庭と地域の枠組みがひろく、あいまいになる
- ◎ ③ 教育の定義がひろがる
- ◎ ③ コミュニティスクールの取り組みが進む
- ◎ ③ 校内別室、支援センターなど、多様な学び場へのニーズの増加
- ◎ ③ 近くに学ぶ場がなくなる
- ◎ ③ 地域のことを語れる人がいなくなる
- ◎ ③ 多様化と学びの方向の迷走
- ◎ ③ 子どもの意欲にマッチした教え方ができると良いな！
- ◎ ③ 既存の教育関係者からの反発
- ◎ ③ AI 活用が良い方向に。地域の活用
- ◎ ③ 親(保護者)の価値観のもとだけで子どもが育つ環境がおこりえる
- ◎ ③ 情報や知識ばかりで、現実にはしきれないことがおこりえる
- ◎ ③ 地域とこどもの生活の乖離
- ◎ ③ 周りの大人の子どもとの関わり方も問う
- ○ ③ 地域の大人と子どもとのつながりが少なくなる。家族単位・個人がより大きい
- ○ ③ 地域ならではの学びがなくなる(知識の伝承のみになると…)
- △ ③ 地域行事や[部活?], 教える人が少なくなってくる、ノウハウの継承がなくなる
- ○ ③ 体験や経験に基づく知識の[個?]の価値が問われる
- ○ ③ 民間教育の場になる
- ○ ③ 子供のつどえる場所を沢山つくる
- △ ③ [専門?]技や経験のある人材がいなくなる

#### 団体・個人に起こりうること(ピンク)

- ◎ 子どもと一緒に、親が地域に入る
- ◎ ③ (特にこどもから)周りの人から学ぶ機会がなくなる
- ◎ 親世代の学習アップデート
- ◎ ③ 決断力の育成
- ◎ ③ 機械や AI に頼りすぎずに、上手く活用しつつベストミックスを考える
- ◎ ③ 体験活動の重要性や価値の再認識、提供する側の人材育成が必要
- ◎ ③ 多様な対応を求められることが増えるが、それに対応する十分な資源の不足
- ◎ ③ 民間や公共の多様な学びの場と、学校との連携の重要性 UP
- ○ ② 体験のコンテンツ化による弊害(格差? 商業化)
- ◎ ③ 学びにやがてついていけない・不登校の子が、学び直せる環境が必要となってくる
- ○ [茶色付箋]体験・興味不足を(どう見るか)、参加しない家庭にどうアクションするか悩む
- △ ③ フリースクールへ求められることがでてくる。半面[判読不能]
- △ ③ いろいろな国の言葉や[文化?]がある事を[知る?]機会をつくる